

兵庫県立森林大学校 令和5年度学校評価

1 学校の教育目標

人材の養成	(到達目標)
(1) 森林林業の即戦力となる人材の養成	課題に対して、自ら考えて、安全かつ効率的に現場作業が実施できる。
(2) 森林林業の次代のリーダーとなる人材の養成	幅広い視野を持って将来を見通すとともに、状況の変化や課題に対し柔軟かつ計画的に判断と行動ができる。
(3) 多自然地域に居住し、地域貢献する人材の養成	地域社会の一員としての自覚を持ち、地域振興や課題の解決に貢献できる。

2 本年度に定めた重点目標

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	ア 意欲ある学生の確保	令和6年度専攻科入学生(8期生)の確保 20人	未達成 9人	<ul style="list-style-type: none"> 11月入試:学校推薦により8名出願し、県内出身者5名(高校新卒4、既卒1)、県外3名(高校新卒2、既卒1)の合計8名が合格。 12月入試:一般により1名出願し、県内出身者0名、県外1名(高校既卒1)の合計1名が合格。 3月入試:自己推薦により1名、一般により1名が出願中。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生の進路選択の時期までに県内や隣接する林業大学校が無い府県のうち専門学校や就職を目指す割合が高い高校を重点的に訪問。その際、生徒に直接説明する機会を設けてもらうよう依頼。 若年層に森林大学校の存在を理解してもらうため、フェイスブックだけでなくインスタグラムやYouTubeなど授業内容等の発信を強化。 既卒者や入学対象者に関わる方々に対し、県下各地の森林等に関わるイベントや都市部における移住相談会等での広報活動を強化。 他林大と合同で学校説明会の実施を検討 大学校の理解が進むようパンフレットの内容を充実させるほか、広く集客が望める場所での広報を強化。 	<ul style="list-style-type: none"> Instagramなど他のツールでの情報発信もお願いしたい。HPの内容も工夫し取り組みをアピールできるような内容にしてほしい。 パンフレットに卒業生の写真を掲載しているが、チェンソーを持ちながらイヤーマフをしていない。このような写真を載せないでほしい。安全に関しては大学校で教えているはずなので、よくチェックしてほしい。 広報の充実が挙げられているが、それをやるには時間も人も予算も必要であるが確保できているのか。問題を共有し知恵を出し合っていくのが良いと思う。
		オープンキャンパス等の参加者数 30人	未達成 17人	<ul style="list-style-type: none"> 7月22日(土):チェンソー伐木や林業機械、野生動物の捕獲の実演見学、GISやドローン、様々な実習機器の操作体験を行うとともに、学校概要の説明や個別相談会を開催。 8月26日(土):光都農林振興事務所と連携し、実際の林業現場において高性能林業機械の操作体験を行うとともに、学校概要の説明や個別相談会を開催。 11月4日(土):学校概要の説明や個別相談会を開催。 参加者は昨年度77名から48名と減少、受験対象者は17名で昨年比50%減少。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学対象者がより参加しやすいよう開催日を日曜日にも設定。 学校訪問を早期に行うとともに、入学対象者及び関係者に周知されるよう更に広報活動を強化。 	
イ 林業就業に向けた支援		2年生の森林林業関係への進路確保 15人	未達成 13人	<ul style="list-style-type: none"> 合同企業説明会を4月に実施(参加企業12社) 卒業見込14人中13名が森林林業関係に内定。 組合3、事業体3、木材2、造園3、公務員2(兵庫県1、富山市1)、未定1 県外出身者4人の内、1人は県内、2人は県外へ就職。未定1 県内外52社117人の求人があった 	<ul style="list-style-type: none"> 就職先についてより多くの選択肢を知るため、学外就業体験研修の回数を(R5)2回→(R6)3回に、実施時期を(R5)8月～9月→(R6)6・7・9月に変更予定 各企業には、最近の学生が企業を選択する要件について説明 	
		1年生の森林林業の進路に向けた意識醸成 19人	未達成 17人	<ul style="list-style-type: none"> H31～基礎セミナーを新設し、進路の手引や個別面談で指導 10月に6日間林業と木材関係等の14社で就業体験 基礎セミナー等を活用し1年生からハローワーク訪問等実施 合同企業説明会を3月に実施(参加企業9社) 進路希望は林業14、公務員1 	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振に伴う対策が必要 学習意欲の向上、個別補講等の充実を検討 	
		履修状況 退学0人、留年0人	概ね達成 退学2人、留年0人	<ul style="list-style-type: none"> 居眠りなど受講態度が悪い、また遅刻や欠席の多い学生に対し、理由等の聞き取りを行い個別に指導。 学業不振の学生に対し、必要に応じ補講を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各学生に適したきめ細かなフォローアップを実施 	
ウ 学校運営の円滑化		新型コロナウイルス感染症等の感染対策の徹底 学校閉鎖0件	概ね達成 学年閉鎖1件	<ul style="list-style-type: none"> 感染者数 延べ15名(新型コロナウイルス7、インフルエンザ8) 新型コロナウイルス感染が流行した期間は、蔓延防止のため当該学年を休校として、感染者以外も含め経過観察等を実施。 流行期においては、感染者が増加しないよう基本的な感染対策(場面に応じたマスクの着用、手洗いや手指消毒等)を指導するほか、学生全員に対して宍粟市から提供を受けた手指消毒用アルコールジェルを配付。 感染の疑いがある学生に対し、症状に応じ受診のうえ検査するよう指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省、兵庫県等の対応方針に基づいて適切に対応 	
		災害時等の安全対策の充実 2件	達成 3件	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒区域に立地していることや、体育館が地域の避難場所として設定されていることを踏まえ、避難訓練やその後の避難所開設について、ひょうご防災リーダー等の専門家から指導。 要配慮者利用施設避難確保計画の策定。 1月17日ひょうご安全の日に、イベントに参加し防災体験を行うほか、「人と防災未来センター」において防災学習を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、災害等を想定した防災マニュアルや避難訓練等の実施が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所に指定されているので、最低限、水の確保はお願いしたい。

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	ウ 学校運営の円滑化	・学生生活への支援 休学0名	概ね達成 1名	・心身の不調を訴える学生に対し、教員が面談を行いフォローするほか、必要に応じ親権者に報告。 ・スクールカウンセラーを委嘱し、年4回希望する学生に対しカウンセリングを実施。	・教員の対応力を向上させるため、スクールカウンセラーによる研修を実施。	
		・専門家等による学生支援の実施 3件	達成 4件	・メンタルヘルス対応のため、委嘱したスクールカウンセラーによる教員や学生への相談指導4回実施	・体調不良による学業不振や進路変更等については、早めの三者面談を行うなど、きめ細かい対応が必要	
		・森林環境教育や公開講座など大学の資源を活用した地域貢献等の機能強化 3件	達成 5件	・小学校の環境学習 1件(宍粟市1) ・高校の体験授業 2件(岡山県2) ・林業事業体等の視察 2件(岡山県1、宍粟市1) ・宍粟市と連携し、本校学生が執筆した木育新聞を市内中学生に発行(年3回)。 ・宍粟市の生涯学習発表会において、学校紹介及び学生の研究発表を掲載。	・関係機関や地域団体等との連携・協働の効果的な実施を図る。 ・将来の入学対象者となる中学生に森林大学の理解を深めるため、トライやるウィークの受入れを要請。 ・県内の農業等高校生に森林大学の理解を深めるため、インターンシップの受入れを要請。	
		・地域住民との連携や交流、地域貢献の実施 10回	達成 16回	・地元の伊和高校と連携し、合同体育大会として参加し、高校生と交流。 ・森林林業木材に関わる3つの県域イベントや地元宍粟市の2つの市域イベントに出展し、森林大学をPRのうえ広く交流。 ・地元地域や県立国見の森公園などが主催するイベントにスタッフとして参加し、労働力として地域へ貢献。		
		・新しい変化への対応等のため、余裕を持った対応ができるよう教職員の働き方改革を推進	未達成 第3四半期末現在の超勤時間が対前年度比43%増	・人員増やテレワーク、多様な勤務時間等の設定を推進 ・超過勤務時間の縮減や計画的年休取得を促進	・兵庫県人材マネジメント方針等を踏まえ、さらなる教職員の多様な働き方改革を推進や業務改善が必要	
エ 教育活動の充実	・教材研究等学生の学習意欲の向上 2件	達成 2件	・卒業研究において、アクティブラーニングによる課題研究となるよう指導。 ・オープンキャンパスの林業体験イベントでは、学生に運営を任せることで主体性を向上。	・アクティブラーニング手法など教え方スキルの向上、理解不足の学生への補講など学生の学習意欲向上に向けた取組が必要	・非常勤はともかくとし、常勤の職員は数年で異動する。教えていく蓄積がないことが大学に魅力がない一つの原因ではないのか。 ・個人的には、県職員が教育をするのではなく、やはり教育なので、少なくとも希望する者ができるように協議していけたらと思う。できれば県が別途募集すべきではないか。	
	・伐木等安全教育の充実 2件	達成 2件	・林業の事故事例を踏まえ、さらなる安全意識の徹底と安全教育の充実のためチェーンソーの実習で各班に安全担当を配置し各班2名体制の実習指導や伐倒練習機による安全教育等を実施	・引き続き、伐倒練習機等を活用し、安全教育の徹底を図る。		
	・専攻科カリキュラムや自主研修の充実 5件	達成 6件	・Jクレジットについて、森林林業概論において盛り込み拡充。 ・脱炭素やSDGsについて、森林林業概論や森林機能保全において盛り込み拡充。 ・学校外が主催する研修について、掲示板に周知し自主研修を促進。 ・高度化コースの一部を夏休みに設定することで、意欲ある1年生が参加。 ・自主研修について、設定日に関わらず意欲ある取組を認定。 ・R5～測量学で国土地理院の授業を実施。人と防災未来センターで防災学習を実施。	・特殊伐採やスマート林業等新たな課題に対応したカリキュラムの充実。 ・先進的、又は優良事例について、可能な限り授業へ導入することが必要。	・スマート林業はどの程度考えて進めておられるか。これからは機械化とスマート林業を徹底してやっていかないと仕事があっても人材がいない状況である。 ・海外研修は、オーストリアだけではなくアメリカも視野に入れて検討してはどうか。	
	・研修科カリキュラムの充実 17科目	達成 16科目	・全体で延べ14科目33日の研修を行い、延439人が受講 ・事業者高度化コースとして、県庁主催の研修との重複を避けるとともに、受講者のニーズを踏まえ、「3次元計測システム活用研修」「ドローン活用研修」「木材活用スキルアップ研修」を廃止し、「QGIS活用研修」を拡充して実施 ・地域リーダー養成コースとして、受講者のニーズを踏まえ「森を育むジビエ料理講座」を廃止し、「ツリークライミング体験講座」を復活させ、新規に「グリーンウッドワーク体験講座」を実施 ・市町職員研修として、県庁主催の研修との重複を避けるとともに、受講者のニーズを踏まえ、「森を活かす行政能力向上セミナー」と「木を活かす行政能力向上セミナー」を統合した「森と木を活かす行政能力向上セミナー」を実施 ・文書で周知するほか、HPやFacebookによる発信や様々な研修やイベントで周知	・さらなる受講者の確保に向けて、受講しやすい環境や周知方法や時期、要望を踏まえた企画が必要		
	・学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	概ね達成	・業界のニーズに対応するため、有識者会議での意見聴取等を実施	・就業体験後のアンケートや卒業生就職先アンケート(就職後半年以上経ってから)などを活用しながら世の中のニーズ把握の継続が必要		

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	エ 教育活動の充実	授業評価の実施・評価体制はあるか	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・研修終了時や年度末に学生・研修生に対してアンケートを実施するとともに、常時、学生との会話を通じて意見を吸い上げ、有識者会議で意見交換する。 ・授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇の日数が増える一方で、授業のコマ数が増えるという矛盾がある。学生のアンケートでは「授業の進み具合が早くて不安だ」という意見もある。講師には授業の工夫をお願いしたい。
		実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫などが実施されている。	概ね達成	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次は林業関係と木材関係、両方でインターンシップ研修(6日間)を実施するとともに2年次は各自就職先を踏まえた事業体で学外就業体験(5週間)を実施するなど段階を踏まえた職業教育を行う。 ・安全教育や技術定着、補講等で、現場のリスクアセスメント、足場や退避場の確認、指差呼称等の基本動作を徹底 ・伐木選手権を見学(希望者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生の学習意欲や質の向上のため、学生の反応を踏まえた教え方や教材研究、アクティブラーニングなどさらなる教育方法の工夫等 ・選択科目の新設等による学生の興味に即したカリキュラムの提供など進路に応じて選択できるよう、選択科目の充実を検討 ・今後も伐木選手権への参加を検討 ・林業技士など管理技術者向けの資格は、当校卒業後に研修課が実施する研修で引き続き研鑽を積めるよう工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・伐木選手権は、参加することで安全への意識や技術が上がる。クラブ活動のような形で参加してみてもどうか。
		・インターンシップ等実践教育受入事業体の確保 30事業体	概ね達成 34事業体	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ等の実践教育を34事業体(学外20、インターンシップ14)で受け入れていただき、終了後、受入事業体等の参加を得て報告会を実施し、「林業関係には様々な職種があり、学校の授業だけではわからないことを体験してもらえてよかった」と参加事業体から評価を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生の意向を早めに調査し、マッチングを図る。 	
	オ 教育環境の充実	・企業・団体等との連携強化 2件	達成 2件	<ul style="list-style-type: none"> ・R5～企業版ふるさと納税等で新技術機器等を導入し、学習内容の充実を図った。 ・国土地理院の授業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き企業・団体等との連携を強化する 	
		・教育環境の機能強化 2件	達成 4件	<ul style="list-style-type: none"> ・R5～企業版ふるさと納税で下記のとおり教育環境の充実を図った ・研修室・多目的室のカーテンの更新 ・掲示板の更新 ・顕微鏡の導入 ・森林計測器の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生や研修参加者の学習環境の充実のため、企業版ふるさと納税の効果的な活用を図る 	
		・実習地等の充実 2件	達成 2件	<ul style="list-style-type: none"> ・R5.3～姫路市との人材育成の連携協定により、市有林を実習に使用。 ・R5.3～川戸実習舎が県農林水産技術総合センターから所属替えとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市町有林や学校有林との連携を検討 	